

事業名	家畜衛生技術指導事業費	財務コード (事業)	056602
-----	-------------	---------------	--------

細事業名	慢性疾病等低減対策費
------	------------

担当部課室	農政 部 畜産 課 安全・衛生 担当 (内線)	5264
-------	-------------------------	------

事業の概要

実施期間	始期 H12 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県 (直営)		
事業の目的	誰(何)を対象に 畜産農家	その対象をどのような状態にして 家畜の慢性疾病による経済的被害が低減されている	結果、何に結びつけるのか 安全・安心な畜産物の生産及び生産性向上
	<p>事業の概要</p> <p>畜産農家に対して、畜産物の生産性を阻害する慢性疾病等の調査・検査・分析を行ない、衛生指導を実施することにより、安全・安心な畜産物の生産及び生産性の向上を図る。</p> <p>調査:農場にて疾病状況の聞き取り、飼養管理状況把握及び家畜の採血等を実施 検査:採材した血液等の分析</p> <p>分析:調査及び検査結果から、疾病の原因究明を実施し、蔓延防止や家畜への適正な薬剤投与等、指導内容を決定</p> <p>事業内容</p> <p>(1) 生産性向上のための疾病防除マニュアルの作成</p> <p>(2) 生産性阻害要因究明のための調査・検査 (サルモネラ自主検査含む) 実績 1,584件</p> <p>細菌・ウイルス学的検査 (500検体) 実績 573件</p> <p>血清学的検査 (220検体) 実績 444件</p> <p>寄生虫検査 (260検体) 実績 246件</p> <p>生理化学的検査 (660検体) 実績 321件</p> <p>(3) 畜産物生産衛生指導体制整備</p> <p>(4) 乳質改善指導 4回 91件</p>		
事業の内容主に24年度			
根拠法令等			

事業の目標、実施状況等 (事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	23年度	24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	検査数	1,672 件	1,640 件	1,584 件	1,640 件	1,640 件	活動指標 目標設定の考え方 過去の実績を参考に用いた データの出典等 当初予算書
	活動指標達成率 (実績値/目標値)		96.6 %				
成果指標	県内家畜共済死廃事故割合 (死廃数/加入頭数)	2.7% (679件/24,893件)	2.7%	2.8% (724件/25,576件)	2.7%	2.7%	成果指標 目標設定の考え方 過去5年間の平均死廃事故割合を踏まえ、4.2%以下の範囲で設定 データの出典等 農業共済組合連合会死廃事故状況
	成果指標達成率 (実績値/目標値)		103.7 %				
決算額、予算額 (千円)	2,322	2,228		2,168	2,022	成果指標によらない成果	
うち一財額	1,303	1,256		1,196	1,068	食肉検査を実施している県福祉保健部(食肉衛生検査所等)と疾病の低減に向けた食肉検査結果等に関する情報交換を実施し、家畜共済の死廃事故の割合が、20年度の4%台から2%台に大きく低下してきている。(全国平均7%台)	
所要時間(直接分)	2,341 時間	2,373 時間		2,373 時間	2,373 時間		
所要時間(間接分)	0 時間	0 時間		0 時間	0 時間		
所要時間計	2,341 時間	2,373 時間		2,373 時間	2,373 時間		
人件費コスト単位:千円 (@2,050円×所要時間)	4,799	4,865		4,865	4,865		

これまでの事業の見直し・改善状況

平成21年度、畜産農家に対する調査・検査・指導を同様に行なってきた他事業と統合し、生産現場における慢性疾病の検査に重点を置くとともに、新しい検査手法を取入れ、所要時間及び経費削減を図った。

活動量と成果の判断 (平成24年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方	数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
H24年度活動指標達成率			
b	b		

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方	必ず記入すること
H24年度成果指標達成率			平成24年度の県内家畜共済死廃事故割合の達成率は103.7%となっている。食肉検査を実施している県福祉保健部(食肉衛生検査所等)と疾病の低減に向けた食肉検査結果等に関する情報交換を実施し、家畜共済の死廃事故の割合が、20年度の4%台から2%台に大きく低下してきている。平均死廃事故割合は、全国平均の7%台に対し、本県では2%台と全国の平均実績を大きく下回り、意図した成果を上げている。
b	b		

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

見直しの必要性 (平成26年度に向けた改善等の考え方)

一次評価 (担当部評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
無		

・「以外の判断項目」の欄
 必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施) 官の役割分担(g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価 (担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

見直しの方向 (平成26年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
現行どおり	

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。